

第11回
千葉県建築文化賞
表彰作品集

2004年

主催：千葉県 共催：(社)千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 堂本 晴子

平成16年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、すぐれた建築物を表彰することにより、建築文化や居住環境に対する意識を高め、うるおいとやすらぎに満ちた快適な街づくりを推進することを目的に平成6年度に創設されました。

第11回目となる今年度は、63点に及ぶ多彩な作品が寄せられましたが、選考委員会の厳正な選考に基づき、建築文化賞4点及び建築文化奨励賞3点を決定いたしました。

受賞作品は、街に開放された3層の広場と街並が一体となって明るい景観がつくりだされた都市型キャンパス、利用者のコミュニケーションをはぐくむ広場として市民参加により計画が練りあげられた多機能の福祉施設、中庭とデッキテラスを巧みに配置した回遊方式により多機能を融合させた福祉センター、環境への配慮として解体後の再利用に向け集成材パネルを使用し、明るく開放的な住宅など、いずれも2004年の千葉県建築文化賞にふさわしい質の高い先導的な建築物です。

関係の皆様の情熱と新しい発想が込められたこれらの建築物は、地域社会の中で親しまれ、より良い街づくりの推進と今後の建築文化の発展に貢献するものと期待しております。

県といたましても、本県の気候風土を背景に生み出されてきた生活文化、伝統文化、歴史などを大切に、県民一人ひとりが千葉に住む幸せと誇りを感じ、年齢や性別、障害の有無にかかわらず、それぞれの持ち味を出して生き生きと暮していける新しい地域社会を、県民の皆様とともにつくっていきたいと思っています。

結びに、受賞者の皆様の今後ますますの御活躍をお祈り申し上げますとともに、選考委員、共催団体など関係の皆様の御協力に深く感謝申し上げます。

平成17年3月

目 次

千葉県建築文化賞について	… 1	選考経過と総評	… 2
流通経済大学 新松戸キャンパス	… 3	四街道市南部総合福祉センター「わろうべの里」	… 4
三和保健福祉センター	… 5	みつわ台の家	… 6
船橋のミニ戸建て開発	… 7	鰻 大和田	… 8
瀧仙郷(森田邸)	… 9	応募〔推薦〕建築物一覧	… 10
建築文化賞選考委員会	… 10		

応募63点から7点入賞(選考経過と総評)

(選考経過)

第11回千葉県建築文化賞は6月の委員会で募集要領を定め、平成16年7月初旬から8月末まで応募を受け付け、総数63点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)依然としてきびしい社会経済情勢の中、残念ながら点数は昨年より16点減少したが、応募作品の水準は平均して高く、むずかしいが手応えのある選考となった。

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに2回の投票を行ったうえで、景観部門4点、高齢者・障害者部門3点、環境部門5点を選んだ。次いで10月下旬と11月上旬の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は平成16年12月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

(選考の過程) (3部門の対象)	応募点数	(1選考) 現地調査	(受賞作品選定)	
			建築文化賞	同 奖励賞
景観に配慮した建築物	38	4	1	2
高齢者・障害者等に配慮した建築物	12	3	2	—
環境に配慮した建築物	13	5	1	1
(合 計)	63	12	4	3

(総 評)

景観に配慮した建築物

応募38点は、いずれも景観形成への注意深い配慮を感じさせるものであったが、今回は規模の小さいもので好感の持てる作品が多くかった。

建築文化賞の「流通経済大学 新松戸キャンパス」は、交差点に面する立地を活かし、3層の広場を街に開放することによって、新市街地を貫くけやき並木と一緒にになった明るい景観をつくりだし、市民に開かれた都市型キャンパスを実現している点が高く評価された。

奨励賞の「鰐 大和田」は、全体を包み込んだ木製格子が半透明のスクリーンとなって街並みを引き締めており、「船橋のミニ戸建て開発」は、とかく問題を起こしがちなミニ開発に正面から取り組み、若々しいライフスタイルを表現する景観を生みだした点が評価された。

高齢者・障害者等に配慮した建築物

この部門の応募は12点であり、福祉施設に見るべきもの多かった。

「四街道市南部総合福祉センター わろうべの里」は、市民参加のワークショップを通じて設計を練りあげた施設であり、吹き抜けの“縁日通り”が5つの機能を結びつけると同時に、利用者のコミュニケーションをはぐくむ広場として役割を果たしている。「三和保険福祉センター」も7つの機能が複合しているが、中庭とデッキテラスを使って回遊性をつくりだし、明るく好感の持てる施設となっている。この結果、2点が建築文化賞とされた。

環境に配慮した建築物

この部門の応募は13点であり、専用住宅に意欲的な取り組みが目立った。

建築文化賞の「みつわ台の家」は、12cm厚の集成材板を使った明るく開放的な住宅であり、解体後の再利用も視野に入れた環境への総合的配慮が高く評価された。また、この作品は周辺の街並みに配慮し、美しい景観形成にも貢献している。

奨励賞の「龍仙郷(森田家)」は、房総半島中央の山里に、敷地に生えていた木を使って建てられた住宅であり、環境と一体化したおおらかな設計と住みこなし評価された。

なお、現地調査対象のひとつ「くりもとミレニアムシティ」は、セルフビルト方式の環境共生建築として委員の関心を集めましたが、COYAと呼ばれる専用ユニットのデザインと構造、周辺環境や地域社会との関係など、まだ今後に残された課題が多く、表彰候補とはならなかった。

選 考 の 基 準

- 千葉県内において、平成11年4月1日から平成16年3月31日までに完成(増築、改築、リフォームを含む)し、現在良好に管理され、また、使用されている建築物で、この表彰趣旨にそっているもの。
- 機能性やデザインなど総合的にみて優れた建築物であり、次のいずれかに該当するもの。
 - ①地域の特性や周辺の環境に十分な配慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出し、地域の景観形成に寄与しているもの。
 - ②安全性・快適性・利便性に優れ、高齢者や障害者等がいきいきと豊かな生活が送れるように十分な配慮がなされ、社会活動への参加が容易に出来るような環境整備がなされているもの。
 - ③エネルギーの省力化や資源の高度な有効利用を図ったり、地域生態環境と親和させるために、自然を取り入れた建築の工夫がなされるなど、人と環境に対して安全安心で健康快適な室内環境の性能について配慮がなされているもの。
- 建築基準法等の各法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないもの。